

12月の生活表

2024年 12月

聖マリア幼稚園

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

月主題：＜3～5歳児＞ 共に喜ぶ

保育日数（15日/19日）

月目標（3歳児）

- ・イエス様のご降誕を楽しみに待ち、クリスマスを祝う喜びを知る
- ・寒さの中でも戸外で遊ぶことを喜び、一人ひとりの日常が大切にされる
- ・クリスマスの雰囲気を感じながら、歌ったりプレゼント作りなどを通していろいろな表現をすることを喜ぶ

月目標（4・5歳児）

- ・神さまがイエスさまを与えてくださったクリスマスの喜びを周りの人と分かち合う
- ・一人ひとりにいただいている恵みに気づき、アドヴェントの生活を経験する
- 寒さを感じる季節の中、体を動かすことに関心をもっていく

今年も師走を迎えます。酷暑で散り急いだ桜の葉っぱも漸く綺麗に色づきました。紅葉狩りも今週末ぐらいがピークでしょうか。12月にしては暖かさが残っていて、これでクリスマスをお迎えするの？と思いたくなる様な日々です。しかし、子どもたちの気持ちも、先生たちもクリスマスへと一目散です。緑組のメインキャストも決まりました。2日には居残り練習も始まります。赤組の各々の聖歌隊のグループも決まり、十字架捧持等の赤組ならではのお役も決まりました。可愛い羊も小天使もお歌の練習が始まっています。心もクリスマスに向かっていますが、サンタさん登場がクリスマスではないことを当園の子どもたちはよく理解しています。そう、イエス様のお誕生日ですね。赤ちゃんのお誕生ってご家庭の一大イベントであり、何にも変え難い大きな喜びですね。まして、「世界の救い主であるイエス様・神様のお独り子」がお生まれになるんですもの。それはそれは、自分たちだけでなく世界中の人たちがお祝いする大切なお誕生日なのです。私たちは、先日のお手紙でも書かせて頂きましたが、このイエス様のお誕生をお迎えする為に、非認知能力に値する心の成長を経験することになるのです。それも祈りを持って、お友だちやご家族、自分の周りの方々のことを考えるという行為を通して。まさしく誰かのための大切な非認知能力の養いです。ある本を読んでいますと、非認知能力は、日々の生活の中での認知能力を経験し、理解した上でないと養われるものではないとありました。また絵本の読み聞かせ・おもちゃを使った遊びをしていない子どもは知的な能力を伸ばす経験・準備ができていないことがある。異年齢での関係も大切なこと。更に提供されたおもちゃを保育室に置くということは、遊びの幅が広がる遊具、玩具の質と量を確保する「活動」のスコアが上昇するとも言われ、子どもの成長に合わせた適切なタイミングで適切な遊具・玩具を使うことは、保育者と子どもたちとの関わりの質が高まると記されていました。子どもの学びは真似ることから生まれているものです。「面白い」「かっこいい」「やってみたい」など憧がれる気持ちを持つことにより成長が促されていきます。それもご家庭のみではなく集団で真似ることから始まり、自身がさまざまな経験を体得していくのです。その中に色・数・形・文字・音など、子どもが「目に見てわかる」物を通して知識の獲得を試行錯誤し自分を磨いていきます。その上で、人間関係を通し「心」を育てる機会が得られることで、非認知能力へと繋がっていくのです。クリスマスのお役の踏襲はとても大きな意義があります。日々の感謝を捧げ（献金）人の為に祈りましょう。自分自身の気持ちを穏やかにする為にも。Merry Christmas💖 見えないものを大切に愛の光が輝きます様に。

《チャプレンコーナー》

年主題：さあ、漕ぎだそう 奏でよう

年聖句：12月月間主題：共に喜ぶ

月聖句：さあ、ベツレヘムへ行こう。（ルカによる福音書 2：15）

12月に入ると、いよいよクリスマスの準備です。金曜礼拝では、すでに園長先生が、クリスマスについての聖書のお話を始めてくださっています。神様の御子イエス様が、私たちの元にお生まれ下さったことをお祝いするクリスマス。クリスマスは既に、「キリスト教」という小さな枠を超えて、全ての人の喜びの日として、受け止められているように思いません。かつては「クリスマス休戦」ということもあったように、世界が平和になることを祈ります。プレゼントを交換して、愛の交わりを深めます。お祈りをして、心を清めます。みんながクリスマスに向けて、優しい心になり、みんなの幸せを願い、その実現のために少しずつ力を出し合う、そんな優しく嬉しい日になれば良いなど、心から思います。

クリスマスを前にして、世界はあまり幸せではありません。戦争は長引き、社会の不安は高まっています。実は、2000年前も同じような状況でした。巨大帝国の軍事力の元に押さえつけられ、貧しい人々は苦しみ、人々は不安でした。その中でも、「きっと、神様の救いがある」と、人々は希望を繋いできたのです。その希望が、実現したのが、クリスマスなのです。

「さあ、ベツレヘムへ行こう！」と羊飼いは出発しました。東の国の博士たちは、長い旅路を歩きました。希望に燃えた彼らの足取りは、軽かったはずです。

聖書を読んでいると、クリスマスの喜びがひしひしと伝わってきます。この短い紙面では、皆さんに十分伝えられません。詳しいお話は、「聖書をサカナにいろいろ話す会」で致します。関心のある方はご参加ください。「日曜学校」の案内に、スケジュールを載せています。

クリスマスの祝福を、皆さんにお祈りします。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

☆自然の移り変わりに目を留めてみましょう

- ・風の冷たさ、音、樹々の変化、山の色の変化、登降園途中の様々な発見を大切にし、冬の訪れを感じてみましょう。（いのちの輪廻を感じながら）

☆自分で出来る事は自分でやってみましょう。

- ・上着を着る機会が多くなります。ジャンパーのボタンやファスナーが自分で出来るように練習してみましょう。出来ない時にはお手伝いをしてあげましょう。
- ・『○○して下さい。』とのお願いのことばを添えて。
- ・自分の持ち物は自分で整理整頓しましょう。脱いだあとの服の始末（たたむ・フックに掛ける・ハンガーにかける等）、鞆を一定の場所へ・・・幼稚園へは上着を着たまま保育室に上がらせて下さい。たたむ練習をしています。

☆健康管理に留意しましょう。

- ・インフルエンザに備え、帰宅後の手洗いをしっかりと洗いましょう。
- ・暖房器具が活躍する季節になりました。換気と乾燥に気をつけましょう。
- ・子ども達の肌の感覚（汗をかく、冷たい風に当たる）を養いましょう。

☆家の中で、お手伝いをさせましょう。

- ・年末には、子ども達も家族の一員として子どもが出来る範囲のお手伝いをして、責任が果たせるように話し合ってみましょう。（雑巾がけ＝絞る、たたむ、掃く＝クリーナーor箒と塵取りの使い方＝物をのけて掃除する、トイレ掃除＝綺麗に使う 等々）
- ・お手伝いの様々な内容により、その方法や要する時間等、年齢や場面に合った臨機応変さも含めてのお手伝いを考えてみましょう。
- ・楽しいお手伝いになる事も大切です。そのためには、大人からの感謝を伝え、時にはお駄賃（ご褒美）も良いのかもしれないね。

☆年末年始には、隣近所の方としっかりご挨拶が交わせるようになりましょう。

☆年賀状を出し合ってみましょう。

- ・年賀を通して、その人の事を思い、また年齢（3～5歳）や個人（個々の園児）に応じ、年号・干支（子年）・字・数字・電話番号・自分の住所等に興味関心を持つ機会となりますように。（自分が住んでいる地名、祖父母の姓名は？）

☆お年玉について話し合ひましょう。

- ・お金の種類・価値・使い方等について、子ども達に知らせてみましょう。

☆冬休みにもお祈りを忘れずに

- ・年末には、1年間の神様のお守りに感謝し、年始には1年間のお導きお守りをお願いしましょう。（家族の為、お友だちの為、社会情勢や自然事象について、様々な事を・・・）

[クラスだより]

<花組>

秋は風のように過ぎ去り、装いも冬支度...街はすっかりクリスマスのイルミネーションで華やかです。季節を跨ぐ長い2学期も残すところ3週間となりました。

『感謝祭』を終え、朝のご挨拶の「おはようございます！」のお声がちょっと大きくなったお友だち、しっかりと意識して、いやお家で園長先生のお話を受けて、ご挨拶について改めてお話して下さったことが身について、元気いっぱい「おっはよー！！」と笑顔で保育室に意気揚々と足を踏み入れるお友だちがあり本当に嬉しいです。大きな行事を通して様々な経験をした子どもたちですか、常日頃の当たり前の【遊び】の時間も、行事により、改めて大切であることを感じるものであります。普段毎日当たり前に遊んでいる、朝の自由遊びのお片付けの時間が行事に向けての準備や練習の為に早まる...ということは遊ぶ時間が短い！ということ。そんなことをしっかりと感じている子どもたちは朝のご用意を素早く済ませて一目散に好きな遊びに向かっていきます。こうした気づきはとても大切なことです。最近はお友だちとの関わりも深まり、大好きなお友だちと「今日は何をして遊ぼうかな？」「今日は〇〇ちゃんのお隣に座りたい！」と、お友だちに対する思いが溢れている姿も見かけます。時には大好きなお友達を独占したかったり、ご自分のしたい遊びやオモチャを絶対に譲れなかったり、といった思いや欲求がはっきりと出てくる姿も見受けられるようになりました。大きな成長だと思います。時にお友達と思いが交わずに衝突し、嫌な気持ちになったり、嫌な気持ちにさせてしまったり、悲しい・寂しいといった思いから涙が溢れる事もあります。それは、子ども達にとって家族間や兄弟姉妹間で味わう感情とはまた異なり、しっかりと言葉や行いをもって解決しなければなりません。そんな時、子どもたちが自ら気が付いて「ごめんね」「やめてね」「いやや！」などと、自己表現出来れば解決への糸口が見つかりますが、そんなアクションが発信されなければ解決どころか問題や課題にもなりません。子どもたちがご自分の言葉で、ご自分の思いを表現し、上手く言葉に出来なくても先生に（ご家庭では家族に）何らかのサインを出せるように、様々な術を私達周りの大人が正しく表現する事で子どもたちに伝えていきたいと思えます。

アドヴェントです。クリスマスに向けての準備が始まります。クリスマスって何だか心が躍る、喜びのシーズン？どうして？イエス様のお誕生がそんなに凄い事なの！？などなど...クリスマスという言葉や雰囲気ばかりが先行し、実は...ただただ華やかな街の賑わいにウキウキしている？いやいや、マリアの子ども達には心からクリスマスを喜んで欲しい。クリスマスの意味を花組さんなりに知り、神様の愛を感じて欲しい。ご自分が愛されていることを知ってほしいと思えます。そんな思いを胸にクリスマスのご準備をしていきます。可愛らしい羊ちゃん・小天使さんも楽しみでなりません。どうぞお楽しみに。

二学期も可愛い子ども達と楽しい幸せな毎日を平穩に過ごせたことを心より神様に感謝いたします。マリアに大切なお子様をお預けくださり、毎日通わせ、ご理解とご協力を賜り、本当にありがとうございました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。どうぞ皆さまが素敵なクリスマス・年の瀬を過ごされますように心よりお祈り申し上げます。皆様の上に神様の豊かな御恵みと御導きがありますことを心よりお祈り申し上げます。少し早いですが... Merry Christmas and Happy New Year

＜赤組＞

京都の紅葉シーズンはやはり海外からの観光客で賑わいます。美しいはずの京都の秋ですが、毎年猛暑日が長く続いているからでしょうか。なんだか枯れたような赤や黄色の葉っぱになっていて残念ですね。また、「暑い〜！」と顔を合わせると伝え合う挨拶から「寒いね〜」に、急な冷え込みと共に変わりました。そんな急に変わる気候の変化を予防し、元気に今月も最後まで過ごしたいと思います。

さて、感謝祭での赤組さんの成長ぶりは、本当に嬉しい姿でした。感謝祭までの取り組みの中で子どもたちが他者へ目を向けていると感じた場面が多々ありました。感謝祭で初めて準備や片付けのお役を担うことになった赤組さん。お当番活動もそうですが、子どもたちは言われるから仕方なくやるのではなく、担当として任されることで物事の意欲も高まり、何より喜んで取り組んでくれます。それでも、もちろん最初は忘れていたこともありました。そんな時には隣のお友だちが「〇〇だよ！」と教えてくれていました。また、本番に近づくと朝から3クラス合同での練習に入っていましたが、花組さんや緑組さんが久しぶりに全員出席になると自然と拍手を送っていたり、誰かが体調不良でお休みをしていると「心配だね。かわいそうだね。」と言いつつたりして自分のことのように誰かを思う気持ちも芽生えたのかなと思います。

そんな風に心も身体も成長した赤組さんですが、様々な「姿勢」が気になっています。例えば、食事中に、身体が歪んできて椅子が机と並行でなく歪んでいくこと、上履きが脱げてしまうこと、それによって食べこぼしが多くなることなどです。子どもたちに、食べさせてもらってる？椅子から立ってウロウロしてる？と聞くと当然「そんなことないよお！」と返事が返ってききましたが「じゃあ、またお家にお邪魔させてもらおうかしら♪」と言うと曇った表情で「それは...嫌かも...。」と子どもたち。「あら？」となっていると「食べさせてもらってる時もある...」と正直なお友だちがいました。そこで子どもたちの意識改革のきっかけとなるように、ランチョンマットを制作し、この1週間はそれを敷いて昼食を食べています。すると、汚したくない一心から見事に食べこぼしがほぼゼロになりました。こぼしたくない気持ちから自然と食事中の姿勢も正されたのです。1つ意識するだけで大きく変わる子どもたちです。食事中の姿勢だけでなく、人の話を聞くためにまず聞く姿勢を整える、聞こうとするなど、日常生活で当たり前に過ごしていることですが、意識していなかったり、姿勢が崩れていると「なんとなく」で行動し、流れ作業のように過ぎ去り姿勢がゆるゆるのままになってしまいます。「今は食事中」と何かの示しをすると意識は変わると思います。子どもたちにもお話して日々伝えております。ご家庭でもご協力いただき、子どもたちの更なる成長を共に見守れたらと願います。よろしくお願い致します。

12月には、聖マリア幼稚園の大切な行事の「クリスマスページェント」が行われます。赤組さんの時にしかできない大事なお役は「聖歌隊」で、ページェントの一番初めに赤組聖歌隊が入堂します。物語と場面の間で2.3人ずつに分かれて登場し、歌でその場面を伝える大切なお役です。クリスマスページェントを通して、互いに喜びを分かち合い、イエス様のお誕生をみんなの愛の光でいっぱい満たす事が出来ますように。

2学期最後の1ヶ月となりました。2024年の締めくくりの月、最後まで嬉しく楽しい

幼稚園となるようにしていきたいと思います。

<緑組>

叱られて...悩んで...考えて...ドキリとして...なんだかわからないけれど、今のままではどうやらダメらしい...「やるときはやる」って何だろう？

感謝祭前に緑組だけがホールに残されて、懇々と言い聞かせられた話。感謝祭だからではない話。「遊びたいから」と後回しにしている色んなこと。例えば上着を畳むこと、例えば椅子を片づけること、例えば制作を進めること...。「例えば」は「後から」やっても「できること」だから「やりたいこと」を優先する。でも...「出来るから後回しでいいの？」という話。「やろうと思ってたけど...」「誰かがやってくれたから...」

「自分のことではないから...」という、子どもたちの声にちょっと寂しい気持ちになって、そこからメラメラと「そういうことじゃない！」と私の気持ちが燃えた感謝祭前。そして...感謝祭。みなさまの目に、緑組はどんな風に映っていたのでしょうか？成長していましたか？頼もしく思えましたか？互いに庇いあい、協力して何かを成そうとしていましたか？そのように、見て感じて頂けていたら、子どもたちは幸いです。私もあの日燃やした「メラメラ」の後悔も、多少報われた気がします。ただ、緑組の中で何かが変わったことは確かです。何か...「自分たちが一番大きいクラスで、リーダーなんだ！」という自覚。初めての感謝祭に戸惑う花組さんの前で、劇の手本を見せる子どもたちは自信満々。肩で風を切るように颯爽と登場し、拍手を受けて満足そうに席に着く。こちらは思わず笑ってしまうのですが、それくらい「自信」をもって挑めたのは「ちゃんと練習した」から。「ちゃんと」って？＝言葉を覚え、自分の成すべきことに責任がもてたのです。そして、自分たちが花組さんを見る目線が、お客様から見られている視点であることにもほんの少し気付くことが出来ました。後の子ども同士の会話の中で「もう、緑組がやるしかないでしょ？だって緑組がマリア幼稚園で一番大きいクラスでリーダーなんだから」と。感謝祭を境に芽生えた年長者としての自覚は「自分だけの視点」から客観的にものごとを捉える視点へ、5歳児なりに「自由と責任」の学びにもなったようです。

幼稚園にとって、緑組にとって1年で最も重要な「クリスマス・ページェント」そのクリスマスへの想いは、初めてページェントを見たその日から積み重ねられた憧れでもあります。子どもたち同士がそれぞれの想いに触れ、考え、受け入れ、受け止め、もしかしたら戸惑うかもしれないけれど...この手紙を読んでいただいている時には、一人ひとりが担うお役も決まっています。

「苦しんでいる人 困っている人 病気の人たちをお守りください。

そして世界中の人たちが 仲良くなれるように お導きください。」

ページェントの最後のお祈りの言葉です。人々のことを想う気持ちを大切に、子どもたちと共に、迎えるクリスマスが、今日まで以上に温かく豊かな時間になりますように...。さあ はじめましょう。